

図書館だより

埼玉県立図書館

29号



(川越市秘書広報課提供)

川越祭

初秋の頃ともなると、川越の街々に、笛、太鼓の音が響いてくる。

川越の人々は、その冴え渡る音に秋を感じる。

山車を持つ町内の囃子連の練習もその成果をみせる頃、川越祭本番の十月十四日、十五日を迎える。

十五日、山車は、旧市内の繁華街を巡行する。

着飾った少女達が「ちゃらんちゃらん」という音を響かせながら金棒を手に歩み、その後を町内の老若男女が曳く山車が進む。

綱を握りしめ、力をこめて曳く山車の舞台では囃子に合わせ、狐・獅子、おかめ、ひよつとこ、猿が踊る。日が暮れて夜ともなると、「札の辻」、「仲町」の辻々では、出くわした山車と山車が、蔵造りを背景に囃子と踊りを競う。

若衆の手にする提灯の明りが躍動し、声援が飛ぶ。まさにこの「曳っかわせ」こそ江戸時代から続く川越祭りの見せ場である。

十時近くになると、ゆるやかな調子の囃子に合わせ、山車は帰路に着き、街は、静寂になる。

私のコレクション

赤田 喜美男

かつて、児童文学研究家の上笙一郎さんが、ご自分の国民学校（戦中の小学校）の卒業証書を見せてくださったことがある。終戦直後のもので、A5版ほどの粗紙、今ではとても考えられない粗末な物であった。私も地図の裏側に印刷された中学の成績通知表を持っていますよ、ひどい時代でしたね。と笑い合ったものである。その頃から戦中戦後の混乱期の資料のコレクションをつくってみようという気になった。

私には小さい時から収集癖があったようだ。小学校一、二年の頃、友人の家の印刷工場にもぐりこんで、カードの切れ端を集めたり、六年生の頃は近くの畑を歩きまわって、石鏝や土器の破片を集めたりした。郵便切手収集に凝った時には、父親の大切にしている封書の切手をはがして叱られたこともある。切手の収集はポツポツ四十年も続いているので、それなりの量には達しているがいわゆる珍品奇種の類はほとんど皆無といってよい。短歌を始めてからは、歌集類・短冊なども収集の対象とし

たが、それもさして深まらず、文字通りお蔵入りになってしまっている。どんなコレクションを作るにしても、普通の場合は金と暇のかかるのが常識だが、私には両方ともないので、完集はもちろん、あまり深い追いつけないことを信条としている。そして集まった品を、縦横に関連づけて自分なりの理屈をつけて、その何点かに価値以上の価値をつけて悦に入るのである。自分だけに通用する価値の創造である。例えば、戦時中の日本軍占領地区の切手から敗戦後の独立国の切手発行までの暫定的な旧切手への加刷切手、これを「橋渡し切手」と名付けて集めた。あまり見栄えのしない切手が多いが、各地区の顔がみえてなかなか面白い。社会的な動きを追求すれば更に興味が深まるうが、そこまではやらずにガラスケースに並べて説明をつければ結構楽しんでもらえるミニ展になる。中年から私は図書館に勤めるようになったが、これが主任以下三人という狭くて暇な図書館であった。暫く仕事の勉強をしているうちに、例の癖が頭をもち上げた。そしてまだあまり手のついていない郷土資料の収集をやってみようということになり、いつの間にか夢中になった。は

じめて趣味と実益が一致するという幸運に恵まれた訳である。規則にしばられることもなかったが、一応先進図書館のルールを見習った。そして手当たり次第に当地に關係ある印刷物類を集めた。折しも市役所が新築されてその引っ越しというチャンスにぶつかった。古い倉庫がこわされるので何十年間かの書類が野積みになった時、私はリヤカーを持って行き、火に投入される寸前の資料を積み替えることができた。その中には、市の予算書、決算書、事務報告、市勢要覧など基本的な行政資料も沢山含まれていた。埃にまみれて紙の束の山を選び分けている姿は、図書館員というより、掘り出し物を鶴の目鷹の目で探す何かのマニアにみえたにちがいない。事実その成果は、今でも行政資料としてきれいに製本されて居り、市史の編さんや郷土史研究家の研究に役立っているものも多い。それらが基礎になり今では四千タイトルを超える郷土資料をもつに至り、わが館の面目を保つのに役立っている。お役目の収集ではこうはいかなかったと思ったりする。さて、話をもとにもどして戦中戦後の資料収集のことを述べよう。私たちが小学校入学の年に日中事

変が始まった。そして国民学校五年生のときに太平洋戦争に突入、中学二年生から通年動員、三年生の夏終戦。まさに軍国教育の最も烈しかった時代に少年期を過ごした。国民学校の頃の炎天下の草取奉仕、中一の海洋訓練では二升の米を背負って箱根を越え、軍事教練の査閲では番柱の校庭に折り敷の姿勢で小半日出番を待ったこともある。しかし、やはり一番辛かったのは陸軍被服廠に動員された時の炎天下の物資積出し作業であった。空襲の合間の作業の一コマ一コマが今でも脳裏に鮮明である。だから夏が来れば思い出すのは、はるかな尾瀬でも遠い空でもなく、銃撃を受けてころがりこんだ防空壕の匂いであり、B29の幾条もの航跡雲である。私は、戦後動員の過労がもとで病を得、人生のコースを変えられてしまったばかりでなく、今でもその後遺症に悩まされているので、当時のことには特別の思いがある。戦争に対する怨念といえるかもしれない。

そのようなわけで戦中戦後の資料収集は、今までの気楽なコレクションとは異った気負いがあるようにわれながら思うことがある。しかし、当時の物はみな粗紙、粗品、意外な

ほど残されていないのに気がついた。わずか四十年、時には昨日のこのように思えるのに、ほとんどのものは滅失してしまっている。仕方ない、焦らず集めようアンテナを高くしたら、だんだん品物が現われてきた。まず身近なものから、スフのゲートル、紙で編んだような戦闘帽、鉄甲、防空頭巾、帯芯で作った肩かけかばん、ベルト、モンペ、陶器で作った校章入ボタン等、学校用具では、教練教科書、勅諭集、軍歌集、通信訓練用具、国史教科書から果ては当時必携とされていた敵機一覽、東部軍管区情報地図（B29の米襲コースが記入されている）さらに米軍機が電波妨害のために撒き散らしたアルミ箔、東京炎上の灰（池袋辺り戦災を受けた朝、空から降ってきた灰をノートに受けとめておいたもの）風船爆弾の紙の断片など、今からではなかなか手に入らないものも出てきた。物置の隅から出てきた私の日記には、軍国少年だった気負った文語文が勇ましく綴られていた。わずかに「汗上衣を通す」「また発熱」「疲労甚し」などに背伸びして歯をくいしばっていた日々の本音をかいまみることが出来る。そして体がすっきり駄目になっていたのに、なお終戦

を「口惜し口惜し」と書いていたのだから教育の効果の恐ろしさを改めて思わずにはいられない。私が人心地をとりもどしたのは、敗戦の翌年、病氣をおして進駐軍でアルバイトをした時だった。米軍の持っている日用物資の豊富なこともさることながら、軍人たちの余裕ある考え方と人間味に接したときであった。恐ろしい顔をして権柄づくでわれわれ学生をいびった見習士官たちと比較してつくづく敗戦を実感したのであった。戦後の日々は、むしろ戦時中より物質的な生活は苦しかった。衣食すべてが配給生活であったが、手許にある衣料切符、味噌醬油、魚、糸類の配給券をみても年々粗末になっていくのがはつきりわかる。戦中戦後の混乱期の体験が各人まちまちであったように、戦争に対する考え方も一様でないことは、戦後四十年の人の動きをみるとわかってくる。あと十年たつて戦後五十年目に、このコレクションの展覧会を新しい図書館で開くことが目下の私の夢であるが、その時きつと若い人々が私たちの思いを理解してくれるにちがいないと確信して、さらに資料を集めようと思っている。

（県職人会理事、飯能市在住）

県内図書館めぐり

浦和市立南浦和図書館

昨年八月に開館した南浦和図書館は、この夏満一年を迎えました。

浦和市の図書館複数建設構想にもとづいて、昭和四十九年北浦和に最初の市立図書館が生まれ、その後五十一一年に中央分館、そして三番目に南浦和図書館が建設されました。南浦和図書館は、南浦和駅西口から徒歩六・七分、団地やマンションなどの多い住宅地にあります。

一階が一般資料室。入口を入って右手奥に貸出しカウンターがあり、左手には、明るいみどり色の書架が並んでいます。白い円柱とマッチして、モダンな感じの館内です。

二階には児童資料室があります。児童図書は貸出も一階カウンターで行っているため、児童室担当職員は貸出の仕事はありません。そのぶん子どもに絵本を読み聞かせたりお話ししたり、子どもと本を通して接することに心をくだいています。昨年度の利用状況を見ると、開館

後八カ月間で、図書の貸出冊数は二十六万五千冊。蔵書冊数はおおよそ六万四千冊ですから、一冊あたりにして四回以上の利用がありました。また、図書以外にレコード・CDを約二千六百枚、テープを二千本所蔵しています。現在のところテープの貸出が圧倒的ですが、今後はCDも伸びてゆきそうです。

施設の概要

鉄筋コンクリート造三階建
延面積 一、三二五㎡

一階 一般資料室
二階 児童資料室
三階 事務室・会議室



所在地 浦和市根岸一ノ七ノ一
TEL. 〇四八八一六二一八五六八

●映画と音楽の集い——イタリヤ映画監督作品映画会——

日時 11月8日(出) 14時
「ひまわり」
日時 11月15日(出) 14時
「アマルコルド」

●県立久喜図書館

●著者を囲む会

日時 11月18日(火) 13時半～15時半
会場 羽生市産業文化ホール
講師 太田治子氏
演題 愛について
●郷土資料展
期間 11月11日(火)～11月16日(日)
9時～17時
内容 県内の名酒・名水に関する資料の展示

●県民の日映画会

日時 11月14日(金) 10時・13時・15時
「はしれりユウ」

●名画鑑賞会

日時 10月25日(出) 10時・13時半
「秋刀魚の味」
日時 11月29日(出) 10時・13時半
「恍惚の人」

●テープとビデオ

日時 11月13日(木) 13時半
第1部 テープ「幸手のかたりべ」
関東大震災全4話

科学者の著作
——化学者——

現代はまさに科学技術の時代です。自然科学の進歩は、日進月歩で、まことに目をみはるものがあります。この発展に対して、私たちはいかにこれを生活と調和していくかということが、これからの課題として考えたいかねばならないと思います。そこで今回の「本のひろば」は、二十世紀に、世界的にもめざましい活躍をみせた著名な化学者を取り上げてみました。紙幅の都合で、県立図書館で所蔵している化学者に限らせていただきました。

記載の内容は、以下の順です。
科学者名(生年)、書名(巻数)、訳者、出版者(シリーズ名)、出版年、所蔵館

C・A・クールソン(明43)
イギリスの理論化学者。彼の科学に対する主要な貢献は、分子軌道法

第2部 ビデオ「日本の女医第1号 荻野吟子の生涯」

●CD & スライド
日時 10月9日(木) 13時半
●CD「スメタナ——わが祖国」
「ほか」
●スライド「シルクロード」

※県立図書館特別休館日のお知らせ

秋季特別整理のため、下記の期間休館となります。

浦 和	熊 谷	川 越	久 喜
9月29日(日)～10月8日(火)	10月13日(日)～10月22日(火)		
移動奉仕・視聴覚業務は平常どおり行います。			
0488 29-2821	0485 23-6291	0492 44-5602	0480 21-2659

全ての催し物は無料です。
会場の記入がない場合、いずれも主催館(●印)が会場です。詳細は県立各館へおたずねください。

読書グループの紹介

大河連合読書会

さつき会の歩み

小川町読書会

四季を彩る山囲む盆地、小川町大河小学校一年生の父母対象の家庭教育学級より生まれたさつき読書会は、昭和四十五年五月、会員二十数名にて発足いたしました。

当初は熊谷図書館から本をお借りしました。会の運営等々の様にしたらいののか皆目わからず、熊谷図書館の樋川先生、小暮先生をお招きしいろいろ御指導を仰ぎながら、会長を中心に懸命に進めて参りました。月に一度の定例会では読後感を交代で発表し意見の交換をしました。また、文学散歩として、松郷峠を始め小川町に点在する芭蕉の句碑めぐり、この町にも昔から沢山の文学愛好者の居られた事をこの目で確かめ感激しました。日光では「もう一つの日光」を研修、伊東市では松月院、木下至太郎記念館、尾上柴舟の歌碑など事前に調べて、写真、拓本を取り記録を纏め地域の文化祭に出

品しました。
それから年々読書会も生まれ現在七グループとなり、大河連合読書会と呼ばれる会員も百名を越えました。連合読書会の主な行事は、五月に文学散歩(今年で第十四回)九月に地区民体育祭参加、二年に一度の文集作成です。文学散歩、文集作成にあたっては町の図書館の方々に何かとお世話になります。尚、図書館主催の緑陰読書会、文芸講演会にはつとめて参加する様にしております。
さつき読書会独自の活動は、やや下向きとなり、現在の会員は六名ですが、久しぶりに研修旅行を計画し二泊三日でしたが北海道に行っていました。薄野の華やきの夜を友と気軽に歩く楽しさ、旅なればこそ、函館の夜景、羊蹄山も又すばらしく友との交流をますます深めた旅でした。やがて着実にやってくる老後に備え、これからも読書に励み、心豊かな人生を送る様努力していきたいと思っております。
(小高とみ子)



と、部分原子価の考えを発展させたことであつた。また物理学と数学の分野でも研究を行い、純粋数学やバクテリアに及ぼす、放射線の効果のような、さまざまな問題について数百の論文を発表した。

○化学結合論 関集三訳 岩波書店 昭43 (熊)

J・C・ケンドルー(大6)

イギリスの生化学者。ミオグロビンタンパク質の構造の決定の研究によりノーベル化学賞を受賞した。

○生命の糸——分子生物学への招待

G・T・シーボーグ(大1)

アメリカの物理化学者。超ウラン元素の研究で有名であり、昭26年にノーベル賞を受賞した。

○元素とは何か——新化学入門——

福井謙一(大7)

日本の物理化学者。化学反応の理解を深めた業績に対して、昭56年度ノーベル化学賞を日本人として初め

て受賞した。

○量子化学(第2巻) 朝倉書店 (近代工業化学1・23巻) 昭42 (熊)

I・プリゴジン(大6)

ロシア生まれ、ベルギーの理論化学者。熱力学の範囲を純粋に物理的な科学から生態学や社会学に広げたことにより、昭52年のノーベル化学賞を受賞した。

○化学熱力学(第1・2) 妹尾学訳 みすず書房 昭41・昭43 (浦)

M・F・ベルツ(大3)

オーストリア生まれ、イギリスの分子生物学者。ヘモグロビンの構造解明の研究に対して昭37年のノーベル化学賞を受賞した。

○分子生物学入門——タンパク質、核酸その構造と機能—— 水野伝一訳 東京大学出版会 昭48 (川)

L・C・ポーリング(明34)

アメリカの理論化学者で生物科学者。彼の業績は、二十世紀の科学でもっとも重要なものに属し、主として分子構造と化学結合の理解に貢献

した。彼は二つのノーベル賞を授与された。分子の構造の研究に対して、昭29年にノーベル化学賞、昭37年に核兵器実験の反対運動に対して、平和賞を受賞した。

○一般化学(上・下) 関集三訳 岩波書店 昭26

増訂版 昭32・昭36

第3版 昭49・昭52
上、増訂版上・下 (浦)
増訂版上・下、第3版下 (熊)

第3版上・下 (久)

○化学結合論 小泉正夫訳 共立出版 昭44 (熊)

○がんとビタミンC 村田晃訳 共立出版 昭56 (久)

○さらば風邪薬!——ビタミンCで風邪を追放—— 青井寛訳 講談社 昭46 (浦)

○ノーマアウォー 丹羽小弥太訳 講談社 昭34 (浦)

○ビタミンCとかぜ——インフルエンザ—— 村田晃訳 共立出版 昭52 (久)

○化学1・2 金関義則訳 平凡社(われらの科学) 昭46 (熊)

○量子力学序論——及びその化学への応用—— 桂井富之助訳 白水社 昭37 (浦)

S・L・ミラー (昭5)

アメリカの化学者。生命の基礎単位であるアミノ酸が、原始地球の太古の大洋の中でどのように生じうるかを示す鍵になるような実験を行った。

○生命の起源

野田春彦訳

培風館

昭50

(川)

J・W・リネット (大2)

イギリスの化学者。分光学から反応動力学や分子構造にいたる広範囲にわたって研究した。

○量子化学序論——波動力学と化学

結合——藤代亮一・木村昂共訳

東京化学同人(現代化学シリーズ15) 昭37 (浦・熊・川)

参考文献

○世界科学者事典2 化学者

デービット・アボット編

日本語

版監修 伊東俊太郎

竹内敬人

訳

原書房

昭61

○化学大辞典(全10巻)

縮刷版

化学大辞典編集委員会編

共立出版

版 昭52~53



編集後記

彼岸も過ぎ、すっかり秋めいてまいりました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋、などなどさまざまな行事が目白押しの季節です。

夏の疲れを癒し、この秋一冊の本を熟読してみたいかがですか。十月二十七日から十一月九日まで読書週間です。

IFLA東京大会(国際図書館連盟東京大会)は八月二十四日から二十九日まで、海外、国内からの参加者が多数集まり盛大に開催されたと聞いています。

今年も「本を読む県民のつどい」が川越市で開催されます。多数の参加をお待ちしております。

ード(川越市他)

「蔵(川添登編 文藝春秋)

「蔵造りの町並(川越市教育委員会)

「蔵造りの町並」木部良樹著

「歴史手帖」7巻6号所収 名著出版

「埼玉大百科事典」(埼玉新聞社)

「図説日本の町並み」第3巻(第一法規) 他

「川越の町並みとデザイン」

「川越の蔵造り」(川越市教育委員会)

「川越の蔵造り」宮下辰夫著

「川越の蔵造り」(川越市教育委員会)

おたすねぐださい

問 川越の蔵造りの由来を調べたいのだが。

答 川越市には、元町、幸町、仲町などに三十余戸の蔵造り(店蔵のみ)が保存されています。

そのどつしりと落ち着いた堅固な建物が軒を連ねる町並は、小江戸と呼ばれ栄えた城下町川越を象徴する景観として有名であり、現在も多くの観光客が訪れています。

蔵造りは、江戸時代に生れた民家建築様式の一つで、火災を防ぐためにつくられた建物です。

国の重要文化財に指定されている大沢家住宅は、寛政四年頃に建てられたといわれています。

蔵造りと言えば川越とされるほどに、最盛期には二百戸を上回る蔵造りが建てられるきつかけとなったのは、明治二十六年三月の川越大火でした。この火事は、当市の川越町総戸数の三分の一以上一、三〇二戸が焼失する大災害でしたが、先の大沢家のような蔵造りの家は、厚い土壁と味噌や粘土で塗りがため密閉された扉に守られ無事でし

た。この強い耐火性が実証されたことから、川越の中心街の商家の多くが競って蔵造りの建築に着手したといわれます。

参考資料

「川越市の歴史的環境保全・再生に関する調査研究」環境文化研究所

「川越の蔵造り」宮下辰夫著

「川越の蔵造り」(川越市教育委員会)

「川越の町並みとデザイン」